

第40巻1号特集

「林業における新技術とデジタルデータの活用」への投稿募集

レーザ計測等を活用した森林資源情報の把握、下刈作業や集材作業の自動化など新技術を活用した省力化あるいは労働生産性向上のための多様な取組が、全国各地で展開されつつあります。これらの技術をより浸透させるための応用技術の開発や現場における適用条件等を整理して提示することも森林利用学会の役割かと思えます。2024年度の森林利用学会シンポジウムは、「林業における新技術とデジタルデータの活用」をテーマに開催し、森林デジタル情報の収集技術やオープン化による莫大なデジタルデータをどのように活用していくかということについて話題提供とディスカッションが行われました。近年、異分野の新たな技術が非常に速い速度で森林・林業に浸透してきている中で、現時点においてどのような技術があり、どのようなことに役立つのか、また現場で活用する上での課題は何か、活用に関する研究事例や課題の解決策等に関する最新の研究成果等などをご紹介頂きました。ここから、学会全体として新技術に関する現状の技術レベルを共通な認識として捉え、さらに森林・林業へ活用しやすい技術として発展させていくことが必要と考えられました。そこで、この話題について学会誌の誌面においてさらに深掘りしていきたいと考え、来年の本誌第1号では、シンポジウムと同じテーマ「林業における新技術とデジタルデータの活用」で特集を組むことと致しました。

特集では、UAVをはじめとして森林情報データを取得するためのLiDARや地上型レーザーキャナーなどの技術、情報の利便性を高めるためのデータ仕様等標準化に関するものやデータ処理に活用されるAI技術、取得した森林情報データをもとに構築するデジタルツインに資する研究などシンポジウムのテーマに沿った原稿のほか、RTKや近年利用環境が整ったCLASによる絶対座標の測位技術やSLAMによる自己位置特定技術、森林デジタル情報を活用した林業機械の遠隔操作化・自動化等に関する研究、あるいはICTの基盤となるローカルエリアネットワークの構築、さらには木材生産における脱炭素化に貢献する電動化技術などの新技術に関する原稿についても広く募集します。新しい技術の導入で、従来からの林業のシステムが大きな変革を迎え、低い労働生産性や高い労働災害率、高齢化による労働力不足といった、これまで解決が難しかった現場が抱える林業特有の問題の解決につながっていくことを期待しています。

本特集にお寄せいただいた原稿は、審査を行い、2025年1月末発行の森林利用学会誌第40巻1号への掲載を予定しております。そのため、論文（研究、技術）については**2024年8月30日（金）まで**、その他の種別（総説、速報、研究・技術資料、抄録、雑録）については、**2024年9月30日（月）まで**原稿を募集いたします。会員の皆様からの多数のご投稿をお待ちしております。

森林利用学会誌編集委員会